



Springfield College The National YMCA Hall of Fame にて

メッセージを 発し続けることが 明日の指導者を育てる

柳 敏晴

Yanagi Toshiharu

神戸常磐大学教授
元神戸YMCA主事

▼テーマは「Heart Warming Camp」

神戸YMCAで22年間主事を務めました。当時、私の担当は体育教室が主でした。元余島キャンプ長の建助さん（故・近江岸建助氏）は1つ下です。

神戸YMCAキャンプの本流を余島とするならば、沼島は定例プログラム参加者のキャンプという位置づけでした。余島キャンプの礎には「人と出会い神と交わり愛の火のもえるところ」という石碑があり、そのテーマでキャンプが展開されています。沼島でのキャンプのテーマは「Heart Warming Camp」でした。様々な場面において、人との交わりが重要な役割を果たしてきました。

当時、神戸YMCAスタッフだった粥川道子さん（現北海道キャンプ協会会長）と共に「ガールズウェルネスキャンプ」を実施したり、スタッフとともにグリーンチャペルをつくったりしたのも良い思い出です。

▼キャンプの「ストーリー、流れ」を大切に

私が須磨の海で育った関係もありますが、沼島では海の素晴らしさ、厳しさを学びました。特に潮の干満、台風などの自然の強さを直に感じます。

冬には志賀高原スキー場に、その当時は夜行バスで行っていました。朝到着するのですが、一面銀世界の朝の景色を見た瞬間、バスを止め、その場で子どもたちとともにイースター早天礼拝をしました。大切なことを伝えていくためにはキャンプ場自体の持つ雰囲気や自然の持つ力をどう活かすかが大切ですね。

大学の教員になってからは海外のY M C A やキャンプ場を視察する機会が多く与えられました。特にアメリカは学校教育と社会教育の役割がしっかり分かれています。夏休みには3週間、4週間をY M C A のキャンプ場で過ごす。10月には翌年の夏休みのキャンプ予約が一杯になるといほど、多くの子どもたちがキャンプに行くことが当たり前になっている社会です。

フロストバレーでは「環境教育」「ウエルネス」をテーマに展開されていますし、キャンプコールドマンでは「水」をテーマにスタンプ、発表をしていたことが印象的でした。キャンプの「ストーリー、流れ」を大切にする姿勢がY M C A にはありますね。

▼「明日の指導者は今日つくられる」

「明日の指導者は今日つくられる」という言葉があります。キャンパーはカウンセラーに憧れ、カウンセラーはスタッフに憧れます。今も嬉しいことは、私たちがはじめた「水上安全キャンペーン」が続いていることです。そのようにメッセージを発し続けていくことが大事です。そのことで、次の指導者が育てられていきます。

Y M C A キャンプが社会に対して何を訴えるのか。自然災害が多発している近年において「いのちの大切さ」「安全・防災」ということを一つのメッセージにしてY M C A キャンプのミッションをみんなで盛り上げ、練り上げていく必要があると考えています。

スキーや体操、水泳ではワッペンシステムがありますが、キャンプにおいてもそういった評価システムがあってもいいのではないのでしょうか。「グッドシチズン」、つまり社会に資するより良い人材を育てていることに対する評価です。

Y M C A キャンプ 100周年を間近に控え、キャンプ文化が日本キャンプ協会やその他団体に広がっているという面においては功績があると思いますが、Y M C A の訴えたい本質的なことが広がっているかというところではないように思います。今一度その点について考えていく必要があるのではないかと思います。アジアに対して日本のキャンプの先見性をどう発信していくか、グローバルな視点でキャンプを捉えていくこともこれからの100年において必要なポイントだと思います。

Profile

1947年兵庫県生まれ。

神戸Y M C A に22年間奉職、その後鹿屋体育大学、名桜大学を経て、現在神戸常盤大学教授（教育イノベーション機構長）。

福岡Y M C A においてはウエルネス事業委員長を長年務め、キャンプ企画、スタッフ・リーダートレーニングに関わった。



【取材：福岡Y M C A 奥村 洋充】